



大人が絵本を

第89回 絵本の日アワード

司書・読書アドバイザー 安藤 宣子*

小児歯科医師 濱野 良彦**

* 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)
** 医療法人元気が湧く 理事/ファウンダー

お金持ちって、おもしろーい!

新型コロナウイルスに脅かされ続けて2年目となった2021年は、私たちが元気になる明るい話題が少しずつ舞い込むようになりました。

昨年12月、実業家の前澤友作氏らが搭乗するロシアのソユーズ宇宙船が国際宇宙ステーション (ISS) にドッキングし12日間滞在したニュースは、皆さまも注目されたことでしょう。日本人の商業宇宙旅行は、実に31年ぶり2人目、ISSに滞在したのは民間人として初めてで、その視点による動画がYouTubeで流されたのですから、地上にいて、遠い宇宙を身近に感じる感動の体験を味わうことができたのです。

2021年は前澤氏の他にも、アマゾンとヴァージンの創業者がそれぞれ宇宙飛行に成功したことで、宇宙旅行時代の幕開けの年と言われました。ところが、前澤氏の宇宙飛行に対して、日本のマスメディアで「金持ちの道楽」としたコメントがあり、そんな見解を嘆く意見が国内外であがりました。

1960年代に、40年後の未来を描いたSF『2001年宇宙の旅』がありますが、リアル「2021年宇宙の旅」となって、空想の物語が現実となったのです。映画や小説で『2001年宇宙の旅』を楽しんだ経験のある大人にとって、思わず高揚してしまうトピックでした。

大富豪にしかできないことであっても、夢をもつことは富に関係なく自由ですし、生きる糧となるのです。前澤氏の行動やメッセージに、勇気と希望をもらった人は多いでしょう。こんな時代だからこそ、子どもたちが夢を抱ききっかけになったと思います。

「お金持ちって、おもしろーい!」

第5回 絵本のエピソード 館長賞

宇宙旅行時代幕開けの2021年「絵本の日アワード in FUKUOKA」館長賞に選ばれた作品は、皆さまの心を温かく包み込み、勇気と希望を与えるエピソードです。コロナ時代の今、分かち合いましょう。



絵本の日アワード in FUKUOKA 2021

館長賞 西田さま (京都府)

絵本『花さき山』

私は子どもの頃からたくさんの絵本と出会い、絵本に支えられてきた。母親となってからも息子達と一緒に絵本を読むと、とても穏やかな気持ちになれた。その中で、いつ何度読んでも同じ場面で胸がいっぱいになる絵本がある。それは、『花さき山』。

私と1つ年下の妹を、母は働きながら1人で育ててくれた。妹は生まれてすぐぜんそくで入院し、退院してからも熱を出しては母が病院へ連れて行く事が度々あった。私は病弱な妹の事がとても心配だった。けれど心のどこかで、“私も妹の様にずっとお母さんと一緒に居れたらいいのにな…”という本当の気持ちは、決して口に出してはいけない様な気がしていた。

少し大きくなり、字が読める様になった私は、『花さき山』と出会った。

～じぶんのことよりひとのことを おもってな

手にするときは！

2021 さっちゃんの願い

企画 濱野 良彦

構成 木須 信生 ※※※

※※※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)



『花さき山』
斎藤隆介 作
滝平二郎 絵
(岩崎書店)

みだを いっぱい ためて しんぼうすると、そのやさしさと、けなげさが、こうして花になって、さきだすのだ。～という場面があり、そこにはたくさん色とりどりの花が、それはそれは美しく咲いている。そのページを開くと、“もしかしたら私の思いは花さき山に届いているのかもしれない”と思えた。

やがて妹が回復し元気になり始めた頃、私はそれまで出した事のなかった勇気をふりしぼり、母に1つお願いした。「お母さんのとなりで寝てもいい？」と。すると、母は「おいで」と、布団に私の寝場所を作ってくれた。あの時の嬉しかった気持ちと母のぬくもりは、40年以上経った今でも鮮やかに記憶に残っている。

そして今の私は、あの頃の母に思いを寄せる事が出来るようになった。母1人で、子ども2人を育てる事がどんなに大変だった事か。寂しく辛かったのは、私よりもきっと母であったはず。困難を乗り越えながら、1人で私達娘を育ててくれた母がこの世に咲かせた花は、どれほど力強く美しかっただろう。

『花さき山』は、私にとって母のぬくもりと、感謝の気持ちがいっぱい詰まった特別な一冊である。

個から文化へと広がる絵本とエピソード

館長賞とは、ビブリオキッズの水田祥代館長が特

別な願いを込めて選出する特別賞です。5つの賞の中で唯一愛称を持ち、水田館長の幼少期から今日に至る呼称をそのままにした「さっちゃん賞」で親しまれています。それだけで特別な賞なのですが、それだけではないのです。小児外科医であり、学校法人福岡学園の理事長を務めるさっちゃんが、卓越した医師の目線と、女性の目線、豊富な人生経験を合わせて選考されたエピソードは、スペシャル・アワードというわけです。

そんなさっちゃん賞を受賞された西田さまが幼少期、病を抱えた妹の「お姉ちゃん」としての葛藤や苦しみを、『花さき山』によって少しずつ処理していたエピソードは、さっちゃんの医師魂を刺激したのでしょうか。

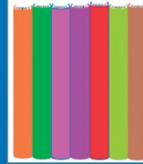
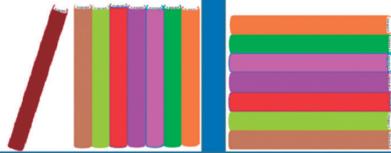
医師は、病児だけを治療するのではなく、そのきょうだい児や保護者をも対象とします。入退院を繰り返す次女と、その姉2人のお子さまをお母さま1人で育てられたという家族愛のエピソードには、3者の気持ちと絵本のチカラが内包されていて際立っています。きっと医療者育成のテキストとなるでしょう。



一冊の絵本の歴史を知れば知るほど

1969年初版発行の絵本『花さき山』は、2019年に50周年を迎えました。しかし、本当の「初出」は、1969年ではないのです。

50年間、人々を心の深層世界へと導いてきた『花さき山』が最初に登場したのは1967年のことで、斎藤隆介氏の童話集『ペロ出しチョンマ』（理論社）のプロローグの位置づけでした。全体の構成としては、「プロローグ・花咲き山」、続く26話、そして「エピローグ・トキ」となっていて、意図して冒頭に置かれた『花咲き山』は、後に続く作品に関わる意義がこめられているのです。そのプロローグが2年の



間に独立したというユニークなエピソードをもつ絵本なのです。

その発端は、絵本『花さき山』の出版社である岩崎書店の、当時の編集長にあります。1969年に新宿で開催されていた児童美術家による同人展に、滝平二郎氏が出品していた試作「花咲き山」の数枚と出会った編集長が衝撃を受けたことに始まると、岩崎書店のホームページに記されています。それは、「この童話から、かくも美しいイメージを結ぶことができる画家の創造力(あるいは想像力)に対してであった」のです¹⁾。

作者と画家の共作の場合、画家の描写表現力もさることながら、作者のイメージを想像して、創造する力は、それだけ長けているということなのです。

絵本化の依頼を受けた滝平氏は、あっさりと承諾し、その年の年末に発行されたというわけです。ところが、子ども向け絵本には明るい色彩が好まれていたため、「黒い表紙の絵本」は当時、物議をかもしました。しかし、『花さき山』はそのタブーを打ち破る作品となり、翌年から始まった講談社出版文化賞の「第1回ブックデザイン賞」を受賞するのです¹⁾。

それから50年後、絵本の日アワード さっちゃん賞に輝いたのが、『花さき山』から生まれたエピソードなのです。絵本そのものがもつエピソードというわけです。

さっちゃんの願いが広がるとき…

2017年に創設した「絵本の日アワードin FUKUOKA エピソード部門」ですが、この5年の間に2賞増設し、5作品が贈賞対象となりました。

応募総数450作品となった2021年の受賞作品倍率は、90倍ということです。さっちゃん賞を選考する水田館長は、福岡学園理事長の多忙な職務の合間で、最終選考に残った作品を審査し、1作品を選出しているのです。ところが第5回は、どうしても1作品には絞り切れないと、2作品をさっちゃん賞に

選んだのです。

宇宙新時代の2021年、絵本の日アワードは5回目にして、初めて6作品への贈賞となりました。絵本の世界が、水面から広がる波紋のように文化へと広がりをみせているのです。

グリーフケアも備えた絵本

2作品が選出された2021年の、さっちゃん賞受賞作の絵本は、50年を超えて読み継がれる『花さき山』と、もう一冊は2014年発行の『かぜのでんわ』です。絵本『かぜのでんわ』は、東日本大震災のあと、岩手県大槌町に設置された実在する「風の電話」ボックスをモチーフにしたお話であることが、多方面で取り上げられましたので、瞬く間に感動を呼びました。

電話ボックスを実際に設置した佐々木 格氏は、2017年にノンフィクション・エッセイ『風の電話：大震災から6年、風の電話を通して見えること』を出版し、完成までの経緯と、氏の思い、誤解を受けたことや、設置して良かったと言えない部分も赤裸々に告白しているのです²⁾。

『風の電話：大震災から6年、風の電話を通して見えること』
佐々木格 著(風間書房)



臨床心理士の矢永由里子氏が本書を読んで、「これは、かなわない」と思ったことを推薦の言葉で打ち明けています。大切な人を亡くした遺族の気持ちに携わってきた経験では、心の奥深いところに秘めている思いがカウンセラーとのやり取りのなかで徐々に掘り起こされ取り戻されるのに対し、「風の電話」ボックスでは一瞬にして動き出していることを感じているのです²⁾。それを、喪失の悲しみに暮れる人に寄り添う「グリーフケア」活動そのものだと解説しています³⁾。

東北にある「風の電話」ボックスには直接行けな

いけれど、それを絵本が代わって寄り添ったエピソードをご紹介します。

第5回 絵本のエピソード さっちゃん賞

絵本の日アワード in FUKUOKA 2021
さっちゃん賞 泉カンナさま (愛知県)
絵本『かぜのでんわ』

昨年の夏、悲しい出来事がありました。私の大切な人が亡くなったのです。あまりに突然の別れに、悲しみと驚きと困惑がごちゃ混ぜの状態。彼がもうこの世にいない現実を受けとめられない私がありました。「心にぽっかり穴があく」「心がからっぽ」本でよく見るフレーズに初めて自分が陥りました。

そんな時、ふらっと寄った本屋で出会った絵本があります。『かぜのでんわ』です。東日本大震災のあと、実際に設置された風の電話ボックスをモデルにした絵本です。ウサギさんが瞳をとじ、思い悩んだ表情で電話している表紙がなんとも切なく印象的でした。

山の上にある電話は、誰でも自由に使え、誰でも話ができますが、電話線がつながっていません。「電話線がつながっていない? 誰と話すの?」と思いますよね。そうなのです。この電話は、もう会うことができない人に想いを伝える電話なのです。

この絵本を読んだ時、自分と重なる想いがあり、なんとも複雑な気持ちになりました。大切な人との突然の別れ。心の整理がつかない日々。心のモヤモヤ、受けとめられない現実。どうしたらよいか分からなくなり自問自答。それはきつと、伝えたい想いがあるのに伝えられないもどかしさ。だから、心がいつまでもざわざわするのだと気付かされました。

『かぜのでんわ』は、今はそばにいない人へ自分



『かぜのでんわ』
いもとようこ作・絵
(金の星社)



の素直な気持ちを伝える場所なのです。想いを届けることで心が楽になる事を知りました。

私はこの絵本を読んでから、『かぜのでんわ』の代わりになる場所、空を見つけました。旅立った彼がいる空を眺めて、彼に語りかけるのです。一方通行な語りかけに彼は笑っているかもしれませんが、心が救われます。心が落ち着きます。ぽっかり穴があいてしまった心にも、一輪の花が咲いたように穏やかな気持ちになれます。

この温かな気持ちのまま、彼が好きだった春を迎えたい。その頃には、心の穴もたくさんの花で埋められている気がします。

絵本から人々の心へ、人々の人生へ

絵本の日アワード2021 さっちゃん賞を受賞した2作品には、受賞者2名が心の奥の深いところに秘めた思いを絵本によって整理し、意識を変えて動き出した共通項があります。苦しみや絶望を抱えた人の心に作用した、その機微を小児外科医である水田館長は受け止めたのです。それゆえ、さっちゃんの特別な願いは、どちらか1作に絞ることなどできなかったというわけです。絵本は、医療的ケアともなるのです。



文献

- 1) 岩崎書店: 絵本『花さき山』が出来るまで, 岩崎書店 HP <https://www.iwasakishoten.co.jp/special/hanasaki/>
- 2) 佐々木 格: 風の電話—大震災から6年、風の電話を通して見えること—, 風間書房, 東京, p. i-vii, 2017.
- 3) 矢永由里子, 佐々木 格 編著: 「風の電話」とグリーンケア, 風間書房, 東京, 228p, 2018.